

登録コード	E8000400	開講年度	2026				
授業科目	近代文学特別演習				担当教員	藤原 崇雅	
英文授業名	Modern Literature Special Seminar				副担当		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・5時限	対象学生	3-4年生
講義室	教育M401		授業形態	演習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				日本近代文学の専門的かつ実証的な研究方法を知り、それを活用して新規の知見を自身で述べるができるようになる。研究発表を伝わりやすいかたちで行えるようになる。他の受講生の意見に対し、批評的かつ生産的な意見を述べ、討論することができるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	演習発表と討論を通して、受講者の関心領域に含まれる課題を明らかにし、研究対象への理解を深めていく。						
(5)授業計画	第1回：ガイダンス（授業テーマの選択、発表日程の決定、研究関心の紹介） 第2回：近現代文学研究の方法（近代文学演習の発表内容のフィードバック） 第3回：近現代文学研究の方法（学術的文章の書き方） 第4回：近現代文学研究の方法（序論の書き方） 第5回：近現代文学研究の方法（本論の書き方） 第6回：近現代文学研究の方法（結論の書き方） 第7回：近現代文学研究の方法（タイトルと要旨の書き方） 第8回：近現代文学研究の方法（図表の作成法と引用方法） 第9回：発表準備進捗状況報告会 第10回：受講者による研究発表と議論 第11回：受講者による研究発表と議論 第12回：受講者による研究発表と議論 第13回：受講者による研究発表と議論 第14回：受講者による研究発表と議論、授業アンケート 教育実習等を理由とした欠席分については、欠席者と相談の上、補講を行う。						
(6)成績評価の方法	1．授業の達成目標1の「他の受講生の意見に対し、批評的かつ生産的な意見を述べ、討論すること」に関する達成度を測るため、毎回の授業で実施する授業の小テストおよび振り返り（eALPS）：30点 2．授業の達成目標1の「日本近代文学の専門的かつ実証的な研究方法を知り、それを活用して新規の知見を自身で述べること」に関する達成度を測るための学期末レポート：60点 3．授業の達成目標1の「日本近代文学の専門的かつ実証的な研究方法を知り、それを活用して新規の知見を自身で述べること」に関する達成度を測るための研究発表：10点 合計100点						
(7)成績評価の基準	秀：日本近現代文学のさまざまな研究方法を知り、それを活用して新規の知見を高度に述べ、学期末レポートに高度にまとめられている。また、他の受講生の意見について、討論が高度に行えている。 優：日本近現代文学のさまざまな研究方法を知り、それを活用して新規の知見を正確に述べ、学期末レポートに正確にまとめられている。また、他の受講生の意見について、討論が正確に行えている。 良：日本近現代文学のさまざまな研究方法を知り、それを活用して新規の知見をおおよそ述べ、学期末レポートにおおよそまとめられている。また、他の受講生の意見について、討論がおおよそ行えている。 可：日本近現代文学のさまざまな研究方法を知り、それを活用して新規の知見を一部述べ、学期末レポートに一部まとめられている。また、他の受講生の意見について、討論が一部行えている。 不可：日本近現代文学のさまざまな研究方法を知ることができておらず、それを活用して新規の知見を述べられておらず、学期末レポートにまとめられていない。また、他の受講生の意見について、討論が行えていない。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(8)事前事後学習の内容	事前学習：自身の演習発表の準備を行うこと。また、他の受講生の発表対象作品や読書会の対象作品を読了すること。 事後学習：自身の発表内容をレポートにまとめるための準備をすること。 この授業は90時間の学修を必要とする内容である。したがって、60時間以上の時間外学習が必要となる。						
(9)履修上の注意	授業中は、受動的に授業を受講するのではなく、個人追究やグループワークなどの言語活動に主体的に参加すること。また、授業前後に必要な学習を相当時間数行うこと。 本授業は出席しているだけでは単位は認定されない。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	原則的に授業時に直接おこなうことが望ましいが、個人的な相談・質問がある場合はメールにて受け付ける。また、オフィスアワーを利用してよい。対応可能な場合は、その他の時間でも可。 【藤原】研究室：中校舎4F 407 内線番号：4077 アドレス：fuiiware_takamasa@shinshu-u.ac.jp						

【教科書】	授業内で適宜指示する。
【参考文献】	酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』第2版、共立出版、2017 酒井聡樹『これから学会発表する若者のために』第2版、共立出版、2018 上記のほか、授業内で適宜指示する。